

牛白血病の一症例

滋賀県食肉衛生検査所

中山智之、河村裕江、山田 悟

〔はじめに〕家畜伝染病予防法に基づく牛白血病の届出数が増加している。当所は平成 23 年度に牛白血病を 9 症例扱い、届出を行った。そのうち 1 症例について、他症例と異なる所見を認めたので報告する。

〔検体〕・獣種：牛　・品種：黒毛和種　・性別：牝　・月齢：30 ヲ月齡
・検体採取日：平成 23 年 7 月 25 日　・検体採取場所：滋賀食肉センター

〔肉眼所見〕胸部に心臓と肺に癒着するバレーボール大の腫瘤を認めた。腫瘤は表面に大豆大の極めて多数の小腫瘤を伴う(写真 1)。腫瘤剖面はやや膨隆で、肉様(写真 2)。胸腺の腫大を疑った。心耳の肥厚(写真 3)、肺リンパ節の腫大(写真 4)、肝臓の腫大(写真 5)、剖面膨隆および実質脆弱化(写真 6)、腎臓の腫大(写真 7)、第 胃粘膜のやや肥厚(写真 8)を認めた。その他臓器は、著変を認めなかった。



写真 1 胸部腫瘤



写真 2 胸部腫瘤剖面



写真 3 心耳



写真 4 肺リンパ節



写真 5 肝臓

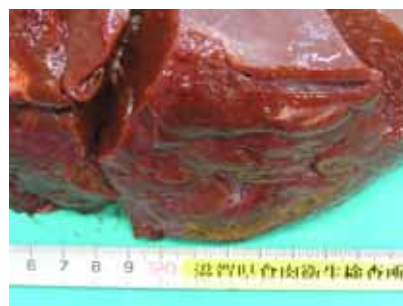


写真 6 肝臓剖面



写真 7 腎臓



写真 8 第 胃

〔スタンプ標本所見：ディフ・クイック染色〕大小不同の異型リンパ球像を、複数臓器に認めた(写真 9)。核分裂像および多核細胞を、複数臓器に認めた(写真 10、11)。細網細胞を認めた(写真 12)。

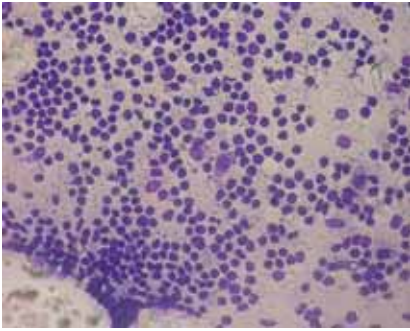


写真9 異型リンパ球像
腸間膜リンパ節 DQ x 400

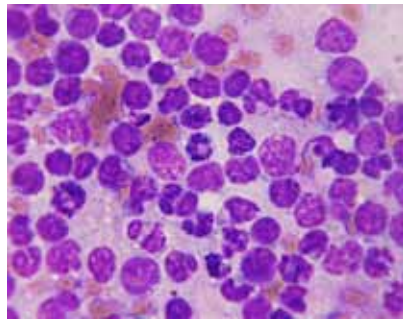


写真10 核分裂像,多核細胞
胸部腫瘍 DQ x 1000

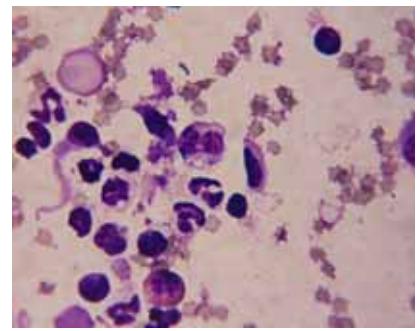


写真11 核分裂像
肺 DQ x 1000

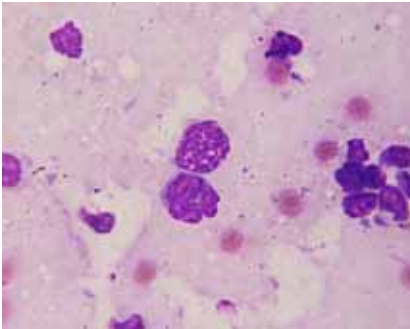


写真12 細網細胞 腸間膜リンパ節 DQ x 1000

〔病理組織所見：HE 染色〕 胸部腫瘍：と畜解体時、胸腺由来と推定した腫瘍の組織切片を鏡検した結果、胸腺特有のハッサル小体は認めなかった。結合組織の増生、リンパ球様腫瘍細胞の著しい浸潤、リンパ小節の喪失、実質内の脂肪変性、うっ血を認めた（写真13、14）。

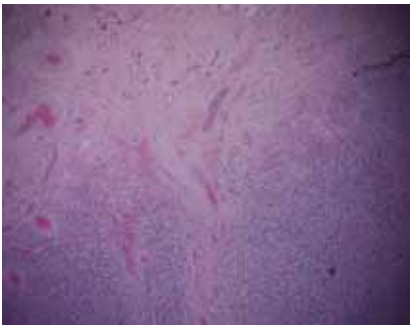


写真13 胸部腫瘍
HE x 40

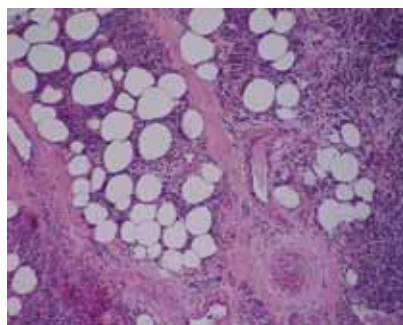


写真14 胸部腫瘍の変性
HE x 100

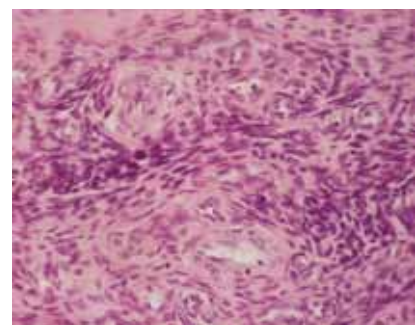


写真15 肺リンパ節
HE x 400

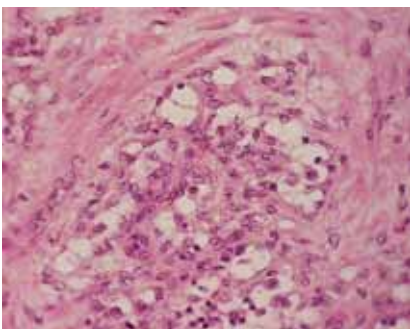


写真16 腸間膜リンパ節
HE x 400

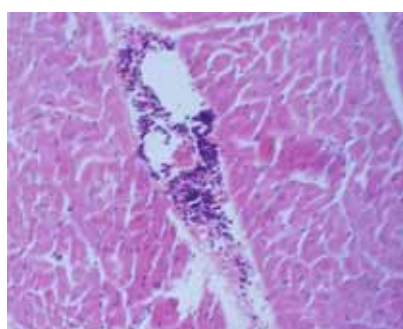


写真17 心筋 HE x 200

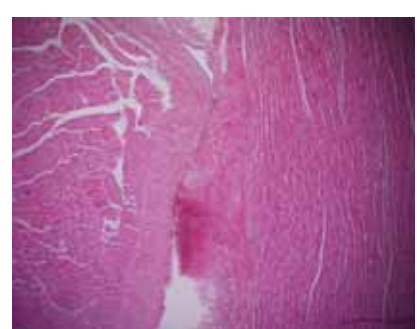


写真18 心耳 HE x 40

肺リンパ節および腸間膜リンパ節：リンパ球様腫瘍細胞の高度浸潤を認めた(写真 15：肺リンパ節、写真 16：腸間膜リンパ節)。 心筋：ごく僅かだが、心筋間にリンパ球様腫瘍細胞の浸潤を認めた。(写真 17)。 心耳：著変を認めなかった(写真 18)。 子宮：リンパ球様腫瘍細胞の組織間への浸潤、血管への囲管性細胞浸潤を認めた(写真 19)。 第 胃：リンパ小節へのリンパ球様腫瘍細胞の浸潤を認めた(写真 20、21)。

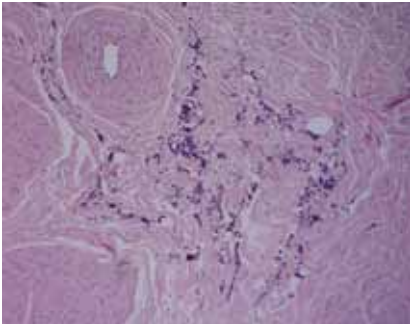


写真 19 子宮 ×100

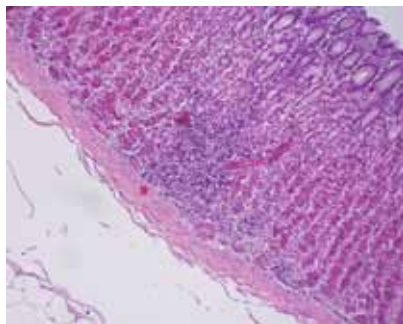


写真 20 第 胃
HE × 100

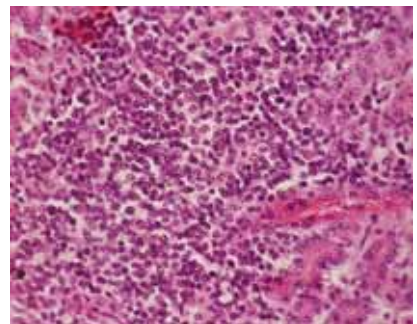


写真 21 第 胃
HE × 400

肺：肺胞へのリンパ球様腫瘍細胞の高度浸潤、黒褐色色素(メラニンと推定)の沈着およびうっ血を認めた(写真 22)。 肝臓：小葉間静脈へのリンパ球様腫瘍細胞の囲管性細胞浸潤を散見した(写真 23)。 脾臓：ヘモジデリンの高度沈着およびうっ血を認めた。(写真 26)。 腎臓：皮質へのリンパ球様腫瘍細胞の浸潤を若干認めた(写真 27)。

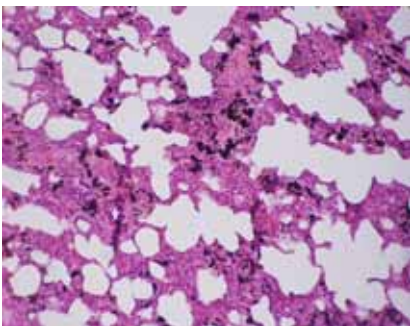


写真 22 肺への腫瘍細胞
の浸潤等 HE × 100

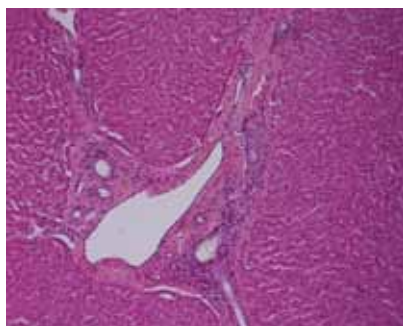


写真 23 腫瘍細胞の囲管性
浸潤 HE × 100

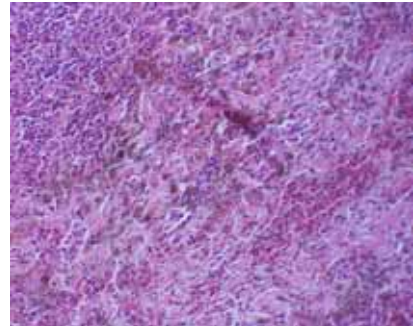


写真 26 脾臓 HE × 200

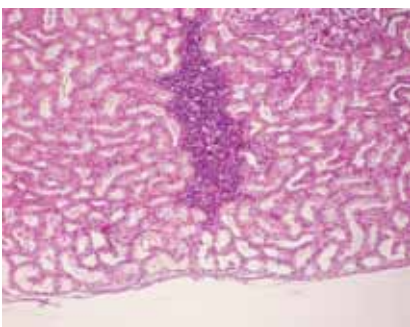


写真 27 腎臓 HE × 100

〔診断〕各検査の所見から、次の通り診断した。

- ・ 組織診断名：リンパ腫
- ・ 疾病診断名：牛白血病（胸腺型）